

『知識ゼロからの西洋絵画史入門』

山田 五郎／著 幻冬舎（2011年）

美術館で、「バロック」や「新古典主義」、「ロマン主義」、「アール・ヌーヴォー」などの言葉はよく聞きますが、その特徴についてはっきりと答えられる人は少ないのではないのでしょうか？西洋絵画の歴史をみるとさまざまな時代様式や芸術思潮がありました。その流れを追いながらそれぞれの時代の代表作を見ていきましょう。この本を読み終えたあなたは、より深く絵画を鑑賞することができるでしょう。

『教えて先生！書のきほん』

『墨』編集部／編 川口 澄子／絵
芸術新聞社（2011年）

「書」ってただきれいに字を書きただけじゃないの？展覧会でも「書」っていまいちわからない。そんな「書」に興味のないあなたでもこの本を読めば「書」のたのしさがわかります。字を書くにはまず「文字」を知らなければなりません。どんな作品を作りたいのか、それにはどんな道具で書くのがよいのか。書の作品の見方とは？など、たくさんの先生方が教えてくれます。



『超初心者のための落語入門』

安原 眞琴／監修
主婦と生活社（2009年）

落語のはなしは一般的に大きく2つに分けられます。江戸から大正時代に作られた「古典落語」と、昭和より後につくられた「新作落語」です。古典落語には今と異なった生活習慣や遊びがたくさんでてきますが、多くの噺にはサゲというオチがあるので楽しめます。

この本では、初心者にわかりやすい32演目が紹介されていますので、ぜひ参考にして落語に親しんでください。

『英国ティーカップの歴史』

紅茶でよみとくイギリス史』

Cha Tea 紅茶教室／著
河出書房新社（2012年）

紅茶の本場、イギリス。でも、もともとお茶は東洋が本場。お茶もティーカップも、東洋からオランダやポルトガル、そしてイギリスへ伝わっていったのです。その頃のお茶は緑茶で、カップも湯のみのようなものでした。いつ今のようなカップになったのでしょうか。そして紅茶はいつごろできたのでしょうか。王侯貴族の楽しみから庶民へ広がっていったお茶と、それをのむカップ。その歴史をたどると、イギリスの歴史も見えてきますよ。



『源氏物語を知っていますか』

阿刀田 高／作 新潮社（2013年）

源氏物語は、平安時代に書かれた物語です。主人公の光源氏を中心として、宮中の人々の恋愛や生活が描かれています。五十四帖という長編のうえ、登場人物も多く人間関係も複雑なので、読むのがなかなか大変です。

この本は、小説家の阿刀田高さんが軽妙にストーリーを展開させていて、読みやすくなっているため、源氏物語が気になっていた人にはおすすめです。

まず第一歩としていかがでしょうか。

『中学生からの哲学「超」入門』

～自分の意思を持つということ～』

竹田 青嗣／著 筑摩書房（2009年）

哲学って、どこまでも考えること…ってイメージだけど、本当のところはどうなんだろう？この本は、ちょっと難しい言葉も使われていますが「自分とは何者か」「世界はどうなっているか」「なぜルールがあるのか」「幸福とは何か」という4つの章から、理想と挫折についてや宗教との違い、また大貧民ゲームを社会のルールに見立てて近代社会を体験しながら、哲学を感じることができます。読めば哲学的な考え方が身に付く本です。